

海外安全対策情報（2015年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ウガンダでは、2016年2月18日(木)に大統領及び国民議会議員を選出する国内総選挙が実施される予定です。現在、与野党各候補者による選挙運動キャンペーンが国内各地で行われており、同キャンペーンにおいて各候補者の支持者が高揚し、周囲とトラブルを起こし暴徒化する事態が散見されます。

つきましては、選挙運動キャンペーン期間中及び投票日後しばらくの間、不測の事態に巻き込まれることの無いよう安全対策を講じるとともに、在ウガンダ日本国大使館をはじめ所属先など関連機関との連絡体制を再確認し、自らの安全確保に遺漏なきよう十分ご留意ください。

○ンツンガモ県(Ntungamo)：西部

12月13日、現職ムセベニ大統領支持者と無所属の大統領候補ムババジ(Amama Mbabazi)支持者との間で大規模な衝突が発生しました。

○ラムウォ県(Lamwo)：北部

12月22日、グル県選出のベティ・アオル(Betty Aol)国会議員に率いられた野党FDCのベシジ(Kizza Besigye)大統領候補支持者とジェイコブ・オウランヤ(Jacob Oulanyah)国会議長代理支持者の間で衝突が発生しました。

○アムル県(Amuru)：北部

12月23日、ベシジ大統領候補が規定選挙活動時間(午後6時まで)を越して午後8時半まで集会をしていたため、警察が催涙ガス及び空砲をもちいて聴衆者らを解散させました。

○ドコロ県(Dokolo)：北部

12月29日、ムババジ大統領候補が規定選挙活動時間を越えて集会をしていたため、警察が催涙ガスをもちいて群衆を解散させました。

○アレプトング県(Alebtong)：北部

12月30日、アワニ(Andrew Awany)県常駐代表(Resident District Commissioner)が県庁へ向かっていたところ、ムババジ大統領候補支持者が道路を塞いでいたため、道を開けるよう要求した際に襲撃されました。

2 一般犯罪・凶悪犯罪

(1) 盗難・強盗事件

○マサカ県(Masaka)：西部

ア 11月4日午前3時半頃、カンパラからンバララへ向かっていたグローバルコーチバスが、ンバララ・マサカハイウェイ(Mbarara - Masaka

highway)のチャバクザ・トレーディングセンター(Kyabakuza Trading Centre)付近にて、小銃等で武装した強盗に襲撃されました。犯人は、乗客から所持金等の金品を強奪し逃走しましたが、負傷した乗客はいませんでした。

イ 11月9日夜、カンパラ・マサカハイウェイ(Kampala - Masaka highway)のミタラ・マリア村(Mitala·Maria)にて、車両強盗を計画しているとの情報に接した警察が付近を警戒していたところ、4人組の武装強盗を発見しました。その後、警察と武装強盗との間で銃撃戦となり、警察は犯人2名を射殺しました。

○ラムオ県(Lamwo)：北部

11月8日午前、南スーダンの軍服を着用した武装強盗3人組が商店を襲撃し、現金79万9千ウガンダシリング(邦貨約3万円)を強奪しました。その後、警察は逃走中の犯人を発見し1名を射殺しました。

(2) 殺人事件

○カベラマイド県(Kaberamaido)：東部

11月6日、自宅から母親と子供2人の遺体が発見されました。3人は毒物を食べたことによる中毒死であったため、警察は毒殺された可能性があるとして捜査を進めました。

○ラカイ県(Rakai)：西部

12月11日夜、牧師の遺体が道路脇に捨てられていたのが発見されました。事件直前に牧師が見知らぬ人と一緒に車で外出するところを目撃されており、一緒にいた男性が何かしらの事情を知っているとして警察が行方を追っています。

○ンバレ県(Mbale)：東部

12月21日、女性の死体が発見されました。警察によると、この女性は犯罪グループに強姦された後に殺害されたことが判りました。

○ンバララ県(Mbarara)：西部

12月25日、ルウィズィ川(Rwizi)から手足を縛られた状態の死体が発見されました。警察によると、この死体は同12日から行方不明になっていた女性の死体であることを確認しました。

(3) 強姦事件

邦人が被害に遭ったとの情報には接していませんが、ウガンダにおいて強姦事件は深刻な問題となっています。また、被害者となる女性の大半が未成年者であり、近親相姦が頻繁に発生しています。

3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ・爆弾事件は発生していません。しかし、ウガンダ政府は近隣国ソマリアの治安向上を目的にアフリカ連合ソマリアミッション (AMISOM) に自国軍を派遣し、ソマリア武装テロ組織「アル・シャバーブ」に対する掃討作戦に参加しています。このため、同組織はウガンダへの反発を強めており、しばしば当国を名指しで報復する旨発言していることから、引き続き注意する必要があります。

また、シリアやチュニジアにおいて日本人が殺害されるテロ事件をはじめ、ISIL（イラク・レバントのイスラム国）等のイスラム過激派組織又はこれらの主張に影響を受けている者によるとみられるテロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険があります。このような情勢を十分に認識して、誘拐・脅迫・テロ等の不測の事態に巻き込まれることがないように、渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情報等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つとともに状況に応じて適切で十分な安全対策を講じるよう心がけてください。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人が誘拐・脅迫される事件は発生していません。しかし、近年ウガンダにおいて身代金を目的とした誘拐事件が発生しており、邦人が巻き込まれる可能性も否定できないため、滞在中は警戒を怠ることのないよう十分注意してください。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情が良好なこともあり、日本企業であることを理由に標的とされる可能性は低いですが、上記「テロ・爆弾事件発生状況」のとおり、テロが世界各地で発生していることを踏まえれば、日本人・日本権益がテロを含む様々な事件に巻き込まれる危険も排除できませんので、十分注意のうえ安全対策を怠らないよう努めてください。

以上